

「人文研究・第93輯 創立85周年記念号」 の発刊にあたって

学長 山田家正

今年(1996年)は本学の前身である官立小樽高等商業学校が1911年(明治44年)に開学してから85年目にあたります。本年7月の創立記念日には簡素ながらその祝賀会を開催したところではありますが、他の記念行事として本学の学術刊行物である「人文研究」と「商学討究」を創立85周年記念号として発刊することに致しました。したがって、「人文研究・第93輯」が創立85周年記念号となり、このたび発刊の運びとなった次第であります。

大学の過去、現在、未来を考える上で85年という年月は何物にも代え難い貴重な財産であり、多くの有為な人材を輩出し研究業績を挙げてきた証でもあります。本学は社会科学系大学ではありますが、その関連研究分野を担当する言語センター、一般教育系教官の研究成果を世に問う場としてこの「人文研究」が存在し、多くの研究論文を発表して参りました。本学の外国語教育と教養教育は高等商業学校当時から伝統的に力を注いできたところであり、現在においてもその教育理念を受け継ぎバランスのとれた教育の実施を心がけております。

現在、国立大学は様々な改革をしなければならない状況にあり、特に教官の研究時間の確保が困難になりつつあります。しかしながら、研究業績を挙げることは研究者にとって基本的な使命である以上いかなる状況下にあってもそれを放棄するわけにはいきません。

人類にとっても、また我が国にとっても多くの困難が予想される21世紀にとって、高等教育機関の果たす役割は益々重く、現在以上に高いレベルの教育の実施が不可欠となることは必至であると思えます。それらの社会的責任の重さを真摯に受けとめ、教育に直接反映される研究業績のレベルアップに

向けて研究環境を整備する努力をしたいと考えております。

「人文研究・93 輯本学創立 85 周年記念号」の発刊にあたり、所信の一端を述べてご挨拶と致します。